

船舶工兵第三十六隊隊員戰鬥概要

昭和三十三年三月十五日
兼三十三號業務整理部。

既兼一而七四日前隊被水送道一橋東入入谷
船船主兵兼三三隊隊
田和二十二年二月十日 渡久巴ヨリ安和ニ移動
二月十日 安和ヨリ島原ヨリ島原村ノ前ニ渡渡
本部ノ難敷 一十餘ノ員五橋 (11/10/17)
三月中隊一高安 材料廠一相善部
三月二十三日南隊
四月八日 中隊西園小村以下特立本是ナリ引取
爾并神ノ島 餘事施傳地ニ新込ニ之ヲ取取也
半隊ノ半運ニ之ヲ入ニ奉同ノ官官ニ成後事ナリ
四月下旬ノ下旬
三月十日 首里北ノ弟想運ニ伴ニ小隊正南第一
隊前隊ノ上ノ前隊長佐藤十左北地正隊長ノ弟乃
五月三日 第一隊改乘ニ成事ノ敵後方捕死スルノ前隊

主力ヲ以テ敵艦ヲ二逆上陸新込ヲ命ゼラル
上陸予定地矣 北谷一牧港
一中隊一大隊 二中隊一タリ舟

我科威一二十八敵隊 連絡艇ヲ使用

牧港北方敵岸ニ上陸シ敵ヲ大混乱ニ陥ル
然ルニ著一砲ノ進出音ノ如ク十三ニ上陸ニ成功セルモ

三日夜ヨリ四日日中ニカケテ敵艦ノ生還者ヲ除ク外全
員滅亡スルニ壯舉ニ対シ軍司令官ヨリ感状ヲ授キ
セラル。

五月中旬甘肅大尉我置隊長トナリ(生還者ニ五〇名
タリ舟ニテ一ニ。研爆彈ヲ積載シ敵艦船ヲ攻撃海
上ゲリテ敵ヲ覆滅ス

ワリ舟五隻ヲ以ツテ一艇隊 一隻三人座乗ス
此間我科威大尉以下五十名那爾北方天久台地陸

上斬江ニヲナス

五月五日 我置隊長ニ我隊 二十九艘ヲ以テ陸上戦斗
部隊編成ヲ命ゼラル

艦工ニテ大隊長ト命ゼラル

大隊長 甘肅大尉

副官 大下大尉(二戦隊)

一中隊(田一中隊隊長者)

長 野中太尉

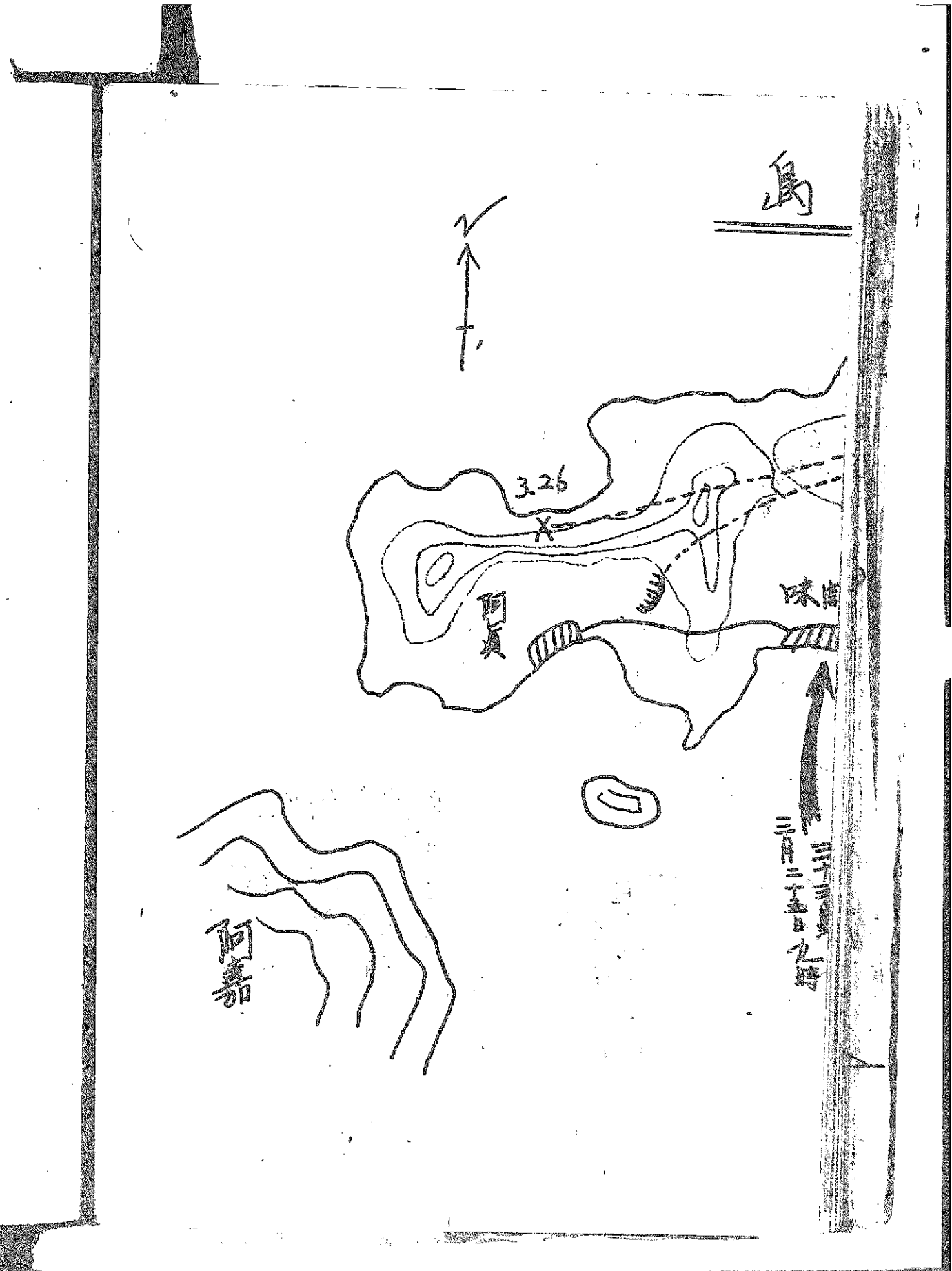
二中隊(田本部) 中 我隊長者

長 相馬大尉(二十九野隊長)

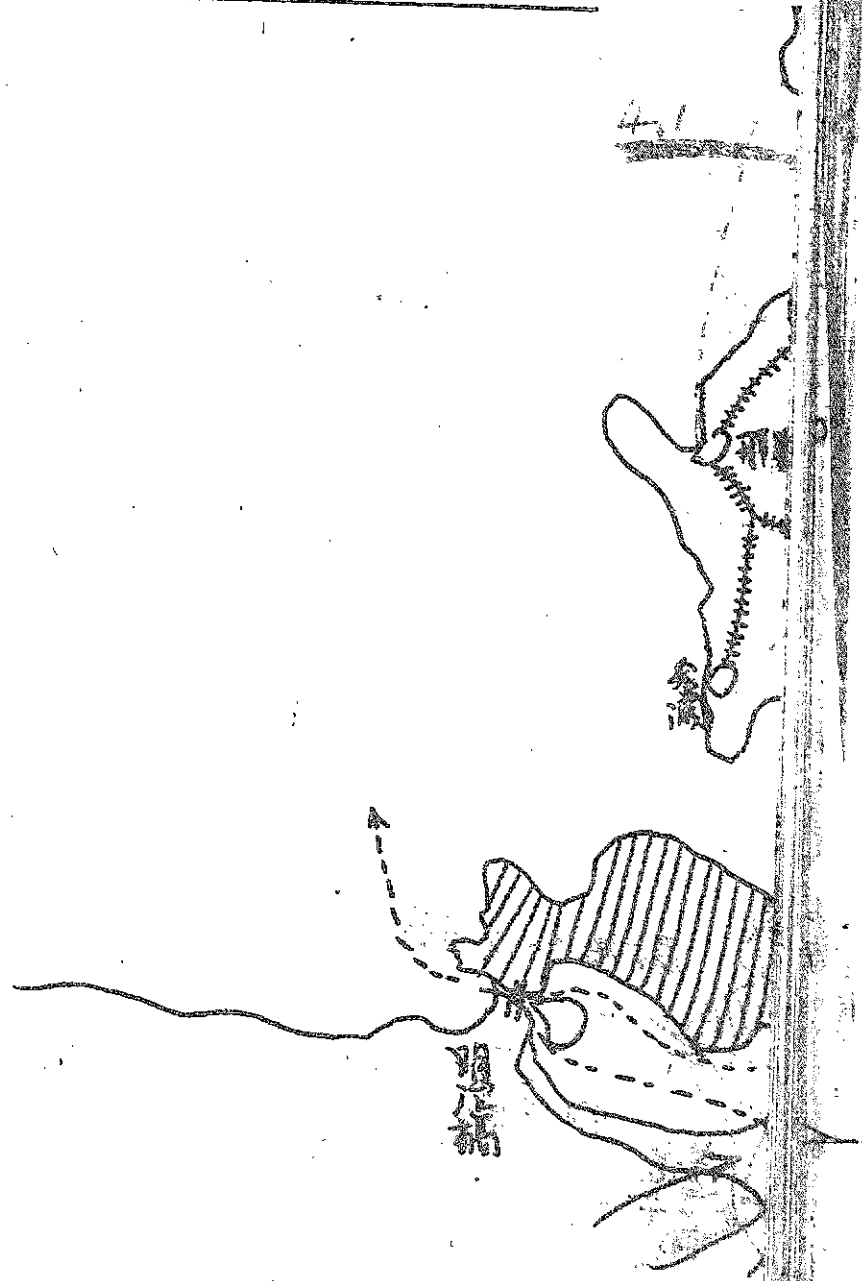
五月二十九日

危殆瀕ニ首里東南方宮城附近ノ著一砲ニ進去敵
ノ猛攻ヲ阻止シ一歩モ譲ラス

島尻大里ノ後退ヲ命ズル此間敵陣ヲ砲撃シ
以テ三角山(一中)ノカク高地(三中)ノ陣地ヲ砲撃ス



S.E
26 联隊陣地附近圖



二十二年三月初旬 國頭郡渡久地ヨリ島尻郡那覇南方二千口ニ

飛進・香取・真玉橋・高安附近ニ陣地ヲ構築ス。

三月二十八日 我孫子曹長以下若干名ハ神小島米軍空砲陣地

ニ新江ニ取行。

四月日米軍ハ中頭郡嘉手納附近ニ上陸シ南進ス此頃佐々

木曹長見立ハ兵ニテ分隊ヲ以テ戦車内攻隊長ヲ命ゼラ

レ首里ニ至ル。

四月中旬・四月中旬下旬ヲ通シテハ第一連隊陣地ヲ構築スニ至

① 本要援助セルモノ如シ。

三月三日 全軍ノ總攻撃ニ慮ジ船工ニ六隊隊ハ東海岸ヨリ中頭

郡ニ進上陸ヲ行ヒ敵ノ後方ヲシクベク西海岸ノ船工ニ

三隊隊ト協力シ日夜ニ二十四時間砲臺塔ヨリ攻撃ス時ニ

刀艇僅カニ二隻ノミ大部分ハクリ舟ヲ以テ攻撃ス。

第一中隊長香藤大尉 坂口少尉 西本少尉 阿部少尉

林崎少尉 宮古准尉等ハ第一連隊ニ出立北谷北方ニ

去要成功セリ。而トドモ等ニ傳、隊隊長以下第一中隊
及本部隊主力、牧港沖附近ニシテ海陸ヨリ攻撃セリ
モ、ナレバ如ク時雨来ニテ同所ニ至ラス

負傷者及亡者若干名ハ中隊長代理 宮田曹長ニ指
下ニ入り第一中隊長 甘露大尉ニ屬ス。

五月四日 同夜 逆上陸決行前 予定セシ集結地 嘉平約ニ至ラ
ハトシテ 戦車ノ攻撃ヲ受ケ殆トシテ 戦死ス。

五月五日 夜 中隊長 有藤大尉 泊附近ニテ 後退セリ 損傷ナシ
以後不明ナリ。

五月中旬以後 宮田曹長 首里東方一キロ 達 玉森ヲ 戦死ス。

五月十三日 夕刻 佐々木憲邦 見士 首里北方ニキリ 附近 戦車内 攻
ニテ 戦死 軍司令部 首里 撤退 (五月二十六日) 以後ハ 残存部隊
ハ 山八一五 兵ニ 戦属ナリトイフ。